

令和3年度

保育所の自己評価

ファミリー保育園

新しい保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図る為、保育の計画の展開や保育士の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、ファミリー保育園では毎年自己評価を実施しております。評価結果を踏まえ、今後も保育内容等の充実を図ってまいります。

【評価について】

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

- A…理想的な状況にある状態（100点～80点）
- B…通常行われている状態（79点～60点）
- C…一部改善、あるべき姿に達していない状態（59点以下）

園の自己評価表(総評)

評価の視点

子どもの活動や状態に対する評価と、保育士自身の保育や援助、環境設定等に対する評価を総合的に判断して、各月及び年間の評価を行う。詳しくは以下を参照とする

評価の視点参照	評価	自己評価
設定したねらいの保育がクラスの達成を確認できたか	A	年齢に沿ったカリキュラムを作成し月案、日誌等で達成を確認できている。
子どもの状況に応じて柔軟な保育ができていたか確認する	B	個性や特性を配慮し、寄り添う保育を行っていった。対応に困った際には職員間で話し合い周知して対応していった。
発達過程に沿った、また発達段階に必要な経験をさせられたか	A	子ども達一人ひとりの発達を理解し、職員で連携を取りながら保育に務めていった。特別支援でも研修等で学んでいった事を保育に実践していく事ができた。
子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程への配慮は適切だったか	A	一人ひとりの子どもの状態がより把握できるよう職員間でも話し合い、勉強会でケース等を設け全職員で情報の共有を行っていった。
環境構成は適切だったか	B	各クラスの安全管理の面で十分に配慮することができていなかった。反省点を踏まえ、職員間でも周知し、今一度保育環境を見直し対応していった。
養護的な配慮がなされていたか	A	毎日の検温、体調管理を徹底し、感染症などの予防を内外共に周知できるよう掲示やメールなどでも周知するよう務めた。
保育者間で必要な連携は取れていたか	B	前年度の反省を踏まえ、職員一人ひとりが積極的に意見を出し合い、連携をとって保育に努めていた。
保護者との連絡は十分に取れていたか	B	コロナ禍の中、玄関先で子ども達の受け入れを行っていたため、普段から保護者と連携をとる事ができなかった。必要な事は電話連絡やメール、おたより帳を利用していた。
必要な記録の確認は適切である。	A	一人ひとりの記録や発達は細かく残していくよう努めていった。
社会人のとしての専門家として自ら資質の向上に努め結果を出すことができたか	A	前年度は思うように研修を行うことができなかったがオンライン等でできる研修を全職員で行うことができた。
前期の反省、評価は生かされていたか	A	行事などを踏まえ職員間で連携を取り取り組む事が出来た。

総 評

・コロナ禍の中、感染予防対策を講じながらの保育で様々な活動、異年齢との関りなどが十分に行えなかった。できることを工夫しながら全職員が子ども達の要求や訴えに対して丁寧に対応し、気持ちを受け止め、状況に応じた対応をしていった。

・さらに専門性を高める為オンライン研修やキャリアアップを積極的に行い職員一人ひとりの保育の質、そして園の質を上げていきたい。

・保護者との関りが少なく、信頼関係がうまく築けていなかったのではないかと反省し、子どもの事を最優先に考え保護者に寄り添い共通理解をすることでさらに信頼関係を築いていけるように努めていく。

・子ども達の主体的活動を尊重する保育を目指して環境や保育内容を見直し進めていきたい。また、子ども達の成長や日々の活動や保育目標を保護者にも共有し、一層相互理解をもって、子ども達を支えていけるよう努めていく。